

## 雪谷地区優秀作文



### 助け合える税

大田区立田園調布中学校 三年 小暮 咲希

二〇一九年十月十二日の夜、台風十九号が上陸し、私の家は浸水した。

あの日、私は一週間後に行われる地域のお祭りで演奏する合唱団のピアノ伴奏の練習をしていた。降り続ける雨風が、多摩川と家の近くを流れる丸子川の水位を押し上げ、夜には一家で近くにある通っていた小学校へと避難した。日付が変わって暴風雨がやや落ち着いたら頃、家の様子を見に帰っていた父から、丸子川が氾濫し我が家が浸水したことを知らされた。

翌朝、寝不足のまま家へ帰ると、電気やガスの復旧作業、床下の吸水、高圧洗浄機による床清掃など、目まぐるしく片付け作業に追われた。冷蔵庫や洗濯機、大切にしていたピアノまで浸水し、両親も疲れ切っていた頃、区の調査で家の半壊証明が出て、お見舞い金や、毛布、軍手などが支給された。被害総額には到底及ばなかったようだが、近くに親戚などがいない我が家にとって、避難用の貸出アパートの説明などは、とても心強かったようだ。その後、被災した人々を対象にした住民説明会で、その年の固定資産税や住民税、医療費などが免除されると言われ、目に見えない温かい援助に支えられながら、家の復旧工事も順調に進んでい

った。

この水害を契機に、国や多摩川流域の自治体が進めているのが「多摩川緊急治水プロジェクト」であり、五年間で、増水時の水位を下げる様々な改修を施している。国交省京浜河川事務所によると、河道の土砂を掘削し、川幅を広げ、河川敷の樹木を伐採し、水位を低下させたり、洪水時に流れを阻害している大丸用水堰の改修、堤防設置などが実施されている。また今回丸子川が氾濫した原因である、多摩川に流れ込む下水道の樋水管などのゲートの自動化、遠隔操作化、排水ポンプ車の整備、土のうなどの配備も並行して行われている。

これらの対策は、全て税金で賄われており、私達が安心、安全に暮らせるように日々進められ、普段の生活ではなかなか感じられない税の行方を身近に感じられた出来事だった。

少子高齢化による社会保障費や、世界各地で行われている戦争に対する防衛関係費、地球温暖化対策に関する環境整備費など、様々な税金の使われ方があるが、どんな時も、困っている人や弱者のために使われるものであってほしいと願っている。そして、私達が大人になって納税する時期が来たら、より良い社会にするために税金が使われていくよう、政治にも強い関心を持って過ごしていきたいと思う。誰もが安心して暮らしていける日本を目指して、一人一人が税について考え、支えあう気持ちを持ち続けていくことを強く望んでいる。